

宮城県看護協会

## 気仙沼支部だより

2024年8月発行

### 令和6年度気仙沼支部通常総会

4月26日(金)気仙沼市立病院会議室にて、参集とZoom併用で通常総会が行われました。水戸支部長からは、通常総会への参加の御礼と、能登半島地震においても、当地域からのDMATや災害支援ナースの派遣に対する御礼がありました。また、当支部の現状について、小児科の閉院、本吉病院の入院機能の再編、大友病院の入院機能の休止、看護学校の定員割れなど、将来にわたり看護提供体制の量と質の確保が大変厳しい状況にあるとお話がありました。しかし、昨年度より活動を平時に戻し、ネットワーク交流会においての顔の見える関係づくりや地域のイベントへの参加、看護のひろばを通し、地域の方々や若年層の方々と交流が図れたこと、今年度は子育て支援事業への参加、看護体験ができる施設を増やし、長期的ではあるが看護職の確保に貢献していきたいと活動方針が示されました。通常総会が開催され、わずか2週間。第1回支部役員会が行われ、活動の具体的な内容や担当を決めました。「みんな一緒にはまらいいや」をテーマに顔の見える関係構築をさらに進めること、「できるイベントではなくやりたいイベント」を企画し施設や職種間交流の拡大を図ること。コロナ禍で見直された内容も多々ありますが、それをマイナスではなくプラスに受け止め、今年度の支部活動が始まりました。



### 健康づくりフェスタ

6月9日(日)まちの保健室として、測定ブースを担当してきました。肌年齢の器械が故障するトラブル

もありましたが、149名の参加があり大盛況でした。

健康を支える会の方々が行う健康相談も大人気でした。



### 子育て応援フェスタ

6月30日(日)看護協会では、赤ちゃん抱っこ、妊婦体験、白衣の試着コーナーで参加をしました。映えスポットの手助けもあり、淡い会場の雰囲気ぴったりな、穏やかで優しさに包まれたイベントでした。「妊婦体験に来ました!」というお父さん、「白血球になるのが夢」と話してくれるお子さんもいて、来場者数に驚きながらも癒された1日でした。



かんごちゃんとはやぼーやの貴重なコラボ

# 看護のひろば

7月20日(土) 気仙沼合同庁舎にて、看護のひろばが開催されました。今年、看護師・助産師・保健師の仕事紹介、学生さんから、気仙沼市立病院附属看護専門学校の行事や実習期間、授業の紹介がありました。看護師の仕事は、病院だけでなく、施設やクリニックと資格を活かして働く場所が選択できること、助産師は女性のライフサイクルの中で、奇跡ともいえる妊娠・出産に関わり、母と子2人分の命を預かる大変な中でも、「痛かった、辛かった」ではなく「良かった、頑張った」とプラスの印象になるよう関わっていること。保健師は、地域でその人らしく生活ができるように病気の予防や健康増進に関わった仕事をしていることが分かり、参加してくれた方々もメモを取りながら熱心に聞いていました。人気の白衣試着体験や進路相談の他、看護師・助産師・保健師のブースに分けて、洗い残しが実際に見える手洗いコーナー、出生時の体重と同じぐらいの赤ちゃんモデルが抱っこできる助産師コーナー、フードモデルで塩分や体脂肪の量が目で見える保健師コーナーがあり、どのブースにもぎわいを見せていました。とても有意義な時間を過ごすことができました。

看護学生さんからの学校紹介。  
説明が終わってからも個別質問が  
たくさんありました！



南三陸町の置くとpass(通過)する  
オクトパス君の紹介もありました。



気仙沼支部役員



各ブースにて



## 編集後記

コロナ禍が明け、できるイベントからやりたいイベントへ・・・を合言葉に、役員一同、看護の魅力を発信しています。また、地域の方々と対面で会話をし、笑顔に触れること、三職機能が力を合わせることで“エネルギーを発散？吸収？”し元気をもらえると感じています。今後も、南三陸町福祉健康まつり、地域ネットワーク交流会、管理者ネットワーク交流会と、イベントは続きます。後半戦もお楽しみに！